

神奈川県立鎌倉支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立鎌倉支援学校第3回運営協議会		
開催日時	令和6年2月22日(木) 午後9時30分～午後11時00分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：6名 事務局：6名		
次回開催予定日	なし		
問合せ先	神奈川県立鎌倉支援学校 副校長 望月 好子 電話番号 0467-45-1951 ファックス番号 0467-43-4808		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>1 学校長挨拶</p> <p>2 学校運営に関するアンケートについて(副校長)</p> <p>【資料1】○集約結果及び考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの評価項目は、昨年度と同様。教職員と保護者は同じ内容。</li> <li>学校評価表集計シート〈資料1〉R5保護者全体</li> <li>学校評価表集計シート〈資料2〉R5全教職員</li> <li>学校評価表集計シート〈資料3〉R5全教職員・全保護者との比較</li> <li>学校評価表集計シート〈資料4〉R5・R4比較：保護者全体</li> <li>保護者自由記述欄について</li> </ul> <p>【質疑応答】</p> <p>Aさん： 回収率が5～6割となっている。「R5保護者・R4保護者の比較」の回収率に9.6%の差がある。この差をどう考えているのか。回収率に差があるので結果の%を単純に比較していいのか。回収率100%をめざすべきである。母数が減っているため、肯定が増えることはよいが、わからないが増えていることに対して注目したい。⑤の学年/学部運営が円滑かの項目に、「わからない」という回答がある。わからないを0にする取り組みの必要性を感じた。⑨PT/STの相談方法が「わからない」という回答が減っているが、ここだけ突出しているのは、仕組みなのか、学部部門の課題があるのか、対応され始めているのか、気になる場所である。</p> <p>Bさん： 「R5教職員・R5保護者の比較」から、保護者が普段の様子を見きれていない、把握できていないことが伺える。工夫できるのではないかと。⑪整理整頓の項目は、保護者と比べ教職員の否定的な回答が13%高い。教職員は職員室を含めて回答をしているのか。</p> <p>副校長： 学校全体を見て回答していると思う。まだ改善ありと教職員は認識していると思う。</p> <p>教 頭： 職員室や教材室など保護者が見ないスペースを含めて回答をしている。</p> <p>Bさん： ③個別教育計画が活かされているかの項目で、モニタリングはどういった</p>		

タイミングで運用してきたのか、個別支援計画の使い方が知りたい。

教 頭： 年に3回面談をしている。面談で保護者に提示し、計画や成果を共有し、保護者の意見をもらっている。その都度、何かあれば変更できる仕組みになっている。

Cさん：個別教育計画は全員が対象なのか？

教 頭：全員が対象である。

Cさん：⑨PT/STの相談方法の項目について、年間の相談件数はどのくらいなのか？

支援G長：保護者から直接受けることは少ない。担任を通じてPT/STに相談する流れになっている。課題としては、担任がPT/STの仕事を把握し、相談ができるのか。つなげる必要性を感じるような力を育て高めていけるとよい。

教 頭：保護者からの直接の相談はほとんどない。教職員からの相談は毎日のようにある。相談件数は、算定している。いつか報告していけるとよい。

Cさん：⑨PT/STの相談方法の項目について、教職員が「わからない」と19%回答をしている。専門職がどういった仕事なのか理解を深めるべきである。教職員に研修が必要である。

教 頭：教職員と児童生徒を繋げていくことが課題である。

Cさん：個別教育計画の相談にPT/STとの連携を密接にしてもいいのでは。

Bさん：⑨PT/STの相談方法の項目について、PT/STと保護者との連携はあるのか？

教 頭：直接ではなく、担任を通じて行っている。必要に応じて直接つなげる。療育施設に一緒に行ったり、装具作りに関する見解を書いてもらったりしている。

Dさん：〈資料3〉⑦⑨の教員の「否定的評価」「わからない」は、相談や説明が十分伝わりきれていない結果であり、保護者の結果にもつながっている。もう少し踏み込んで、教員が理解し動いていけるとよい。担任以外でも連携があるとよい。直に面談に入っていくなど。お互いが遠慮せずに入っていくとよい。

教 頭：教員がしっかり理解を深めるところから始めたい。

### 3 令和5年度学校評価について（副校長）

#### ○年間校内評価

- 【資料2】令和5年度評価について
- |             |               |
|-------------|---------------|
| 令和5年度評価について | 1. 教育課程・学習指導  |
| 令和5年度評価について | 2. 児童・生徒指導・支援 |
| 令和5年度評価について | 3. 進路指導・支援    |
| 令和5年度評価について | 4. 地域との共同     |
| 令和5年度評価について | 5. 学校管理・学校運営  |

【資料3】令和5年度 学校評価年間報告

#### 【質疑応答】

Bさん：全般を通して評価の点数はどうやって誰が決めているのか？

副校長：各学部、各係で話し合いをもって決めている。

Eさん： 防災教育に地域の方を巻き込んでいる。地域の人を呼んだ避難訓練の感想を地域の人に聞くと、「距離が近づいた」「接したことがない方と会える機会だった」と好評だった。地域の方が参加している形だが、地域の方には関心を持たれる方が多くいるので、防災教育や避難訓練に参加できなくても、情報が伝わる仕組みがほしい。また、地域とつながることが大切である。例えば「自治町内会連合会に関心のある資料を配る」→「地域の方が子ども達のことを把握できる」→「話しが通じやすくなる」などコンテンツは色々ある。学校から発信すれば地域とつながることができる。

教 頭： 地域と学校と保護者がつながるよい関係を作っていきたい。

Aさん： 進路学習を部門・発達段階に応じて実施されていてありがたい。支援通信では施設企業の見学会のことが書かれていた。進路支援についてはもっと企業を活用してほしい。教員や保護者の見学を行っている。雇用率が高くなり、保護者が企業や進路先、将来のことを知ることが大事である。高等部の保護者だけでなく、進路先や企業のことを知ってほしい。小学部から教員や保護者の進路学習に企業を活用していけるとよい。先日、武山支援学校のPTAに企業の話をしてきた。先生方が児童生徒の将来のことを知る指導に企業を使ってほしい。協力できる。会議の場所に会社を使ってくれてもよい。

教 頭： 活用していけるように取り組んでいく。小学部からの進路学習を取り組むことが徐々にできるようになってきた。小学部の段階から進路を考えていきたい。教員の研修をさらに深めていきたい。

校 長： 支援学校を知ってもらおうとホームページを使って発信しているが、企業に比べると発信が弱いと感じている。学校の様子を知ってもらうためのツールや方法はないのか？

Eさん： 福祉避難所になっていることによって、様々な場所で鎌倉支援学校の名前が出ている。避難所と勘違いをされることがあるので、チラシがあるとよい。鎌倉市の社会福祉協議会にチラシを置く場所がある。

Bさん： ④「地域との交流」に記載された、高Aの地域のボランティアを活用できた、とあるが、どんなものか。外部の人材ボランティアとはどういった交流があるのか。

教務G長： Eさんから防災の授業をしていただいたり、畑で季節の染め物をしたりしている。

Dさん： 鎌倉スクールコラボファンドを活用した取り組みを実施している。子どもたちの知りたいこと、将来やってみたいこと、伝えたいことなど課題解決の学習を行っている。ちびまるこちゃんの脚本家の方や市の職員、国内外で活躍されている方を招いて学習した。

校 長： 学校に外部の方を入れるハードルが下がってきた。学校の中では教えられない分野のプロフェッショナルな方を招いて学習を広げていくことは、教職員にとっても子ども達にとっても良いのでやっていきたい。

教 頭： 委員の方に防災の授業や身だしなみセミナーをしていただいた。地域の方々に助けてもらい、子ども達の学習がより豊かにしていけるとよい。

Aさん： メイクセミナーの講師は鎌倉支援学校出身の方がやっている。

#### 4 学校運営協議会各部会報告

##### 【資料4】福祉避難所運営部会報告

<資料訂正>・P1 かまくら防災ネット → かまくら防災土ネット

##### 【資料5】切れ目ない支援部会報告

#### (1) 福祉避難所運営部会報告（指導G長）

##### 【質疑応答】

Bさん： 食べ慣れていないものは食べないので、防災食を食べることに慣れてもらうことが大切である。年に1回では足りない。

指導G長： 避難訓練で給食と置き換えて防災食を食べることに教職員から反対の声があった。しかし、預かっている防災食にお湯を入れるものがあったり、パウチの写真より粒の大きいものがあったり不安がある。複数回実施できたらよい。

Bさん： とろみの調整が難しかったりする。研究をしてほしい。

教 頭： ペースト食の子が、粒のある食事をあずけていることがある。確認が必要である。来年度、食べてみる体験ができるとよい。

校 長： 防災食が美味しくなった。食形態の課題は残るが。

教 頭： 学校の配慮食も美味しい。

Eさん： 地域と大学、NPOをつなぐパートナーシップがあり、何ができるのか、どこまでできるのか、連携を模索している。地域や学校のパートナーシップを作りたい。顔がみえる関係になるとよい。横浜薬科大学はモバイルファーマシー（災害対策医薬品供給車両）を持っていて、能登半島地震に出動している。大学側は、どういう情報を学校や地域が欲しいのかわからない。関谷小学校で防災訓練を行う機会があるので鎌倉支援学校も参加してもらえるとよいと思う。防災食が進化していて、こんなものがあることを知らない。介護食の必要性を知らない人も多い。知り合える機会があるとよい。一般の人も福祉の人も一緒に取り組みことが大切。関係づくりがしたい。

教 頭： 連携していけるように相談したい。

#### (2) 切れ目ない支援部会報告（支援G長）

##### 【質疑応答】

Bさん： 医療的ケアの割合が増え、手技が増えてくる。看護師配置の割合も増えている。看護師が教員の人数にカウントされるのが問題だと思っている。教育の面で人手不足にならないか懸念される。看護師さんの目線で関わるので、教員の目線とは違う。ここだけの問題ではない。現場からも強く訴えてほしい。

校 長： 鎌倉支援学校では、看護師9名が配置されている。3名が教諭職、6名が非常勤で勤務時間が決まっている。3名は泊を伴う行事に付き添える。バランスを考えて県から配置されている。

Cさん： 福祉行政とも連携し、受け皿となっている資源や支援とつなげていく必要がある。自立支援協議会全体会に学校の先生が入っている。現状と課題を発信して行政につなげる。会議で話題になったのはどう行政との連携をとるのかである。鎌倉支援学校が主催している鎌倉市進路連絡協議会もある。役割の棲み分けを整理する機会があるとよい。情報交換が必要。いろんな組織があり、共通の話題もある。連携の難しさがある。共通の話題は学校へフィードバックし、連携の仕方を工夫できるとよい。

5 学校長挨拶